



須留が峰

令和4年度
No.6

HPアドレス <http://yabuboard.ed.jp/yabu-jhs/>

令和4年5月11日 発行



学習評価について



中学校では、昨年度からの新学習指導要領の全面実施に伴い、本年度も昨年度と同様の観点で学習評価をしていきます。

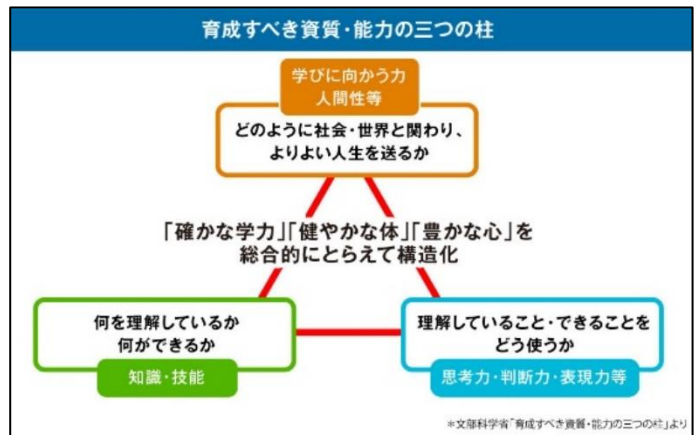
学習評価については、昨年度の学校だより第6号(6/14付け)で一定の説明をさせていただいているところですが、再度、ポイントのみ掲載します。

ポイント① 学習指導要領の改訂

今回の学習指導要領の改訂では、「何のために学ぶのか」という学習の意義を大切に、「何ができるようになるのか」を視点に、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視しています。

ポイント② 3つの資質・能力

そのため、子供たちに育成したい資質・能力について、①知識・技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等という「三つの柱」で示しています。



ポイント③ 3つの観点別評価

この「三つの柱」に合わせて、各教科(「特別の教科 道徳」を除く)の学習評価の観点についても、①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度という3つの観点到整理されています。本校においても、各教科の学習評価について、この3観点を評価し、それらの評価を総括して5段階で評定します。

教科	観点別評価	評定
国語	知識・技能	A
	思考・判断・表現	A
	主体的に取り組む態度	A
		5

* 観点別の評価は、A, B, C で評価します。

* 各教科の評定は、5段階で評定します。

ポイント④ 本校の取組

生徒たちが、①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度の3つの力をバランス良く身につけていくためにも、授業の工夫・改善はもちろんのこと、家庭学習の取組の工夫も必要です。

そこで授業においては、生徒一人一人が知識をフル活用して「思考・判断・表現」する

より所となるように「書くこと」を重視し、そのためのノート指導に力を入れています。各教科の特性に応じて、ノートづくりに取り組んでいます。ノートそのものがこれまでと異なるノートを使い始めたり、ノートの書き方（使い方）が少しずつ変わってきたりしているのはそのせいです。

また家庭学習については、生徒の「主体的に学習に取り組む態度」の育成にもつながるように、その意義や学習の仕方について生徒とともに考えながら、例えば「けテぶれ」の手法を参考にするなど、各教科で宿題（課題）の内容を吟味し、量について調整を図りながら取組を進めています。GW中の課題が例年よりもいささか多く感じたのは、そのせいかもしれません。とにかく家庭学習の習慣化が何よりも大切です。

「けテぶれ学習法」とは、目標に向けて学習計画を立て（計画）、自身の実力を測り（テスト）、実力を上げるためにはどうすればいいかを考え（分析）、学習を積み重ねる（練習）というサイクルを自分自身で回していく学習法のこと。自己学習力を高める手法として注目されている。

1年生の1学期中間テストの取扱いについて

今年度から1年生については、1学期の中間テストを実施しません。「小学校からの円滑な移行」と「主体的に学習に取り組む態度の基盤づくり」という2つの観点から、中間テストを実施せず、小学校での取組を延長させて、小テストや単元テストをこまめに実施しながら、授業や家庭での学習の仕方をこれまで以上に丁寧に指導し、今後3年間の学習にしっかりと対応できる芯をつくっていきたいと考えるからです。

なお、1学期の期末テスト（10教科）は予定どおり実施します。また2年生と3年生が5月25日（水）と26日（木）に中間テストに挑みますが、それに向けて「学習計画表」を作成し自主学習に取り組めます。1年生も同様に「自己学習強化期間」として「特別課題」に取り組めますので、ご家庭でも声かけなどサポートしていただけるとありがたいです。

<3観点の評価は、それぞれどのような評価ですか？>
それぞれ、主に次のようなことを評価します。

(1) 知識・技能
知識や技能の習得状況に加え、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に学習内容を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価します。

<評価方法の例>
ペーパーテスト、文章による説明、観察・実験、式やグラフでの表現 等

(2) 思考・判断・表現
習得している知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているかについて評価します。

<評価方法の例>
ペーパーテスト、論述やレポートの作成、発表、グループや学級での話し合い、作品の制作や表現等の活動 等

(3) 主体的に学習に取り組む態度
知識・技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自分の学習の状況を把握し、学習の取り組み方や進め方について試行錯誤するなど、自ら調整をしながら学ぼうとしているかどうか、意志的な側面を評価します。

<評価方法の例>
ノートやレポート等における記述、授業中の発言内容、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価 等